

## 令和4年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和4年8月23日（火）

地 区 音羽町・木場町地区

会 場 住吉コミュニティセンター

### <意見交換>

◆市民 住吉泉町内会の■■■■です。よろしくお願いいたします。

町内会からの要望事項として、また、熊の出没と鹿の出没ということで、去年と同じように出させていただきました。

熊の出没については、速やかな対応をする、道との対応ができているようなので、ぜひともお願いしたい。鹿のほうについても、町民の方から食いつかれるんですけど、ささやかな花壇の花を、今度、種類の違ったものを食べられるということで何とかしてほしいということかみつかれるんですけど、市の対応も十分にいただいているので、今のところはこれで勘弁してくださいというお話をしているんですけど、鹿たちも繁殖をして、子鹿たちがお母さんのおっぱい飲んでても、町なかや公園で見て、それでなかなか、駆除という言葉がなかなか出にくいんですけど、町なかに出てくるとやっぱり駆除して、せめて町なかだけは出ないようにしていただければと思いますので、その点、よろしくお願いいたします。以上です。

○司会 ありがとうございます。ただいま要望番号の2番の熊・鹿の市街地への出没に関するご質問、ご意見といただきました。市側のほうから回答をお願いいたします。

◎環境生活課長 皆様、お晩でございます。環境衛生部環境生活課の武田と申します。いつもお世話になっております。今熊と鹿についてご要望ございました。

まず、鹿の対策につきましては、やはり■■■■さんがおっしゃるように、町なかへの出没というのが近年非常に増えております。そこで、今年度、11月頃からになりますが、熊の冬眠を待って、この市街地周辺において、試験的な捕獲事業というものを市のほうで予算をつけて実施をする予定になっております。鹿の対策につきましては、まず一つは、鹿全体の生息数を減らしていくということ、これは今申し上げました、市の捕獲事業と併せて、北海道のほうでもエゾシカ捕獲事業をやっておりますので、それを苫小牧市内で継続的に実施していただけるように、引き続き要望しております。

もう一つは、各家庭のお庭の被害ですとか交通事故ですとか、そうしたものに対する対策です。

こちらにつきましては、市において、エゾシカの防除グッズですね、例えば夜間に不規則に発光するフラッシュライト、これも一部、効果が認められております。こうした防除グッズですとか、道路には看板の設置などを行って、人の側に対する注意喚起と鹿に対する威嚇行動、こうしたものを併せて実施をしております。グッズにつきましては、市のほうで貸出しの制度もございますので、ぜひ被害等でお困りの際にはお声がけいただければと思います。どうかよろしくお願いいたします。

いたします。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 はい。

○司会 それでは、次の方、よろしくお願いいたします。

◆市民 高丘泉町内会の■■■■でございます。この津波のことについてちょっと分からないことが多いんで聞きたいんですけども、車で避難しない、徒歩避難のケース、これは、すごくいいと思うんですけども、私たちのように海から遠い人間にとつたらこれはいいんですよね。

ところが、あっち側の鉄道よりも海側の人たちにとっては、これは通用するのかな。この人たちは歩いてきたら、これは津波にのみ込まれるんじゃないか。だから、その場所によって車は使わないようにとか、ここは使ってもいいとか、そういうふうにしたらどんなもんなんでしょうか。以上です。

○司会 ありがとうございます。ただいま津波に関して、海側の方の徒歩避難についてのご質問いただきましたので、回答をお願いいたします。

◎危機管理室長 防災を担当しております、危機管理室の前田です。よろしくお願いいたします。津波避難の際、徒歩避難の原則の話ございましたけども、今お話があったとおり、原則は徒歩避難です。先ほどの説明の中でも、一応原則は徒歩避難なんだけれども、例えばご高齢の方ですとか、あるいは障害をお持ちの方ですとか、避難に時間を要する方、あるいは先ほど水平避難と垂直避難とお話ししましたけれども、通常の避難では時間がかかる方については、やはりそういう車を使う場面も考えなければいけないと思ってます。

ただ、皆さんが全員が全員、車を使ってしまいますと、渋滞が起きてしまいます。東日本大震災でも、皆さんが車を使った結果、渋滞になったということがありますので、徒歩避難が可能な方については徒歩避難をしていただきたい。皆さんが、可能な方が徒歩避難をすることによって、時間がかかる方については車避難ができると、そこは今ほど■■■■がおっしゃったとおりだと思います。そこは、特に海側の方を中心に、これから津波ハザードマップができた後は、地域の皆様方もこのハザードマップを検証をしてみたいです。その際に、この地域について、この地域の中の高齢の方、あるいは障害のある方については、車で行こうねだとか、そういうところはマップができた後の訓練ですとか、そういった防災講座ですとか、そういう中で詰めていく、このことが大事だというふうに思っております。ただいまのご指摘については、そのとおりだということで、お答えにさせていただきます。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 あと関連でいいですか。

○司会 どうぞ。

◆市民 関連で申し訳ない。この説明、いわゆる理解するのにちょっと苦労してるもんですから。

4ページで、三陸・日高沖を震源とするということで、これは何か2つ震源があるような感じがしたんですけども、この三陸と日高沖は一遍に地震が起きたという想定なんでしょうか。

○司会 お願いします。

◎危機管理室長 地震の発生箇所なんですけども、ちょっと、時間の関係で詳しく説明はしなかったんですが、今回、国なり北海道がこのシミュレーションするに当たっては、5か所で津波が、地震が発生する場合を想定しています。3か所は釧路側ですね、釧路側で地震が発生した場合、それから、いわゆる日本海溝という、こちらは太平洋側のほうなんですけども、そこについては、三陸・日高ということで、実際には青森県の東方沖ですね、あの下側のほうがちょうど11年前、東日本大震災が発生したときのプレートがありまして、上側なんです。その上側のほうを日高三陸沖と言っていて、そこも2か所、実は国も北海道もシミュレーションしてます。日高三陸沖のその1はもうちょっと南側といいますか、仙台側のほうなんです。それよりも、今回、日高三陸沖の②というところが、より青森側、ここでシミュレーションした場合が一番、苫小牧で大きな津波が来るということで、5種類のシミュレーションをした中で、一番大きい津波が生じるものがこの日高三陸沖ということで、その青森側のほうの地震だということでの今回シミュレーションとなっております。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。

◆市民 はい。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいませんか。お願いします。今マイクをお持ちいたします。

◆市民 住吉泉町内会の[ ]です。度々すみません。ちょっとこのテーマ出すときに間に合わなかったんですけど、高速の中央インターができて、ちょうど市立病院の前の交通量が劇的に増えたという感じが、住民の方からの意見いただいているんですけど、できてよかったなど思ってる反面、その道路を迂回するために、札幌側来ればちょうど市立病院に真っすぐ突き当たる道路と、室蘭側から来ればちょうどステイにぶつかる道路がちょうど住吉泉町内会を挟んでる形になるんですけど、それをどうも、市立病院のところの混雑を避けるために、ちょうどコミセンの前のこの道路と、ちょうど住吉の児童センターの前の道路を迂回路として通勤時間帯、帰宅時間帯に今非常に使ってるんですね。最近、何かそこに、ハマ遊の会というボランティア団体の集団の建物があるんですけど、ここに車が一回突っ込んだみたいなんですけど、それで、このコミセンの道路は、コミセン利用者とちょうど子供たちが家に帰る時間帯、住吉公園から自宅に帰る時間帯に交通量が増えるもんですから、一度、この交通量を調査していただいて、交通緩和を何とかしていただければなという住民の方からの願いがありましたので、何とかしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○司会 ありがとうございます。ただいま交通渋滞の緩和についてのご質問いただきましたので、市のほうから回答をお願いします。

◎市民生活課長 市民生活課長の畑島と申します。ただいまいただきました、ちょうど児童センターの前の辺りの通りが迂回路という形で利用されているというところなんですけれども、ただいまご希望のございました交通量の調査というところもございましたけれども、まず、交通量の実態で

ありますとか、ちょうど利用されている施設というのが児童センターの前の通りということもありますので、地域の皆様の今出たご意見のほかにも、学校関係者や児童センターの利用者等の意見ちょっと伺いながら、どのような対策が取れるかを、ちょっと持ち帰らせていただいて、検討させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

◆市民 よろしく願いします。

○司会 よろしいでしょうか。

◎市長 すみません、僕も家から市役所に行くときに、今バス通勤してないので、私が、支笏湖道路出るときにすごく混んでるんです。交通量は増えてるから、なかなか行けない。すいてるときと混んでるときの差がすごく、渋滞の車の数が違うんですよ。混んでいたらやっぱり手前から曲がるんですね。以後、気をつけます。

◆市民 僕もそこで、何年も前から、札幌から市立病院の交差点のところ、1台しか左曲がれないでしょう、それで詰まるんだけど、あそこをもう1車線、市立病院に行く真ん中の車線を左に曲がれるというのは、道に要望ずっと出したままなっているから、また出すんですね。もうちょっと待って……。

◆市民 できれば早く……。

◆市民 あそこ2台曲がれば、ちょうど札幌から市立病院のあそこ2台行けば、俺、その後、またバイパス行くときは2台行ける。だから、それを市も把握してやっているんだけど、道だから、あれなんだろうな。

◆市民 できれば早めに……。

◆市民 俺も……。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。

◆市民 ちょっと、そうしたら……。

○司会 お願いいたします。

◆市民 春日清水町内会の■■■と申します。すみません、今のこの浸水のマップの件で、当然、今出たばかりで、進行形で、こういう形で津波が来るということが分かってきたんですけども、今避難をすることを第一でなっていたと思うんですけども、本当大体、津波終わるの3時間ぐらいあるということで、季節にもよると思いますけども、徒歩で避難するといっても、冬の場合とか、じゃあ避難したというけど、避難した外でどうするという話にもなることも考えなきゃならないと思います。そこは各町内会の会館とか、そのときの現状に合わせて開放するとか、民でできることは民とも思うんですけども、ないと思うような想定レベルですけども、やっぱり避難する場所というのも現実には考えていかなきゃならないんじゃないかなとちょっと思うんですけども、それこそ、ちょっとどさくさかもしれませんけども、総合体育館のお話は市長もご存じかだと思いますけども、防災の備蓄も含めた、やっぱり浸水しないエリアに大きな箱というのが必要じゃないかと思ってます。特に市立病院のそばにそういった箱があれば一番、結局、逃げた人が何かした場合もそうですし、東日本大震災のときにも、実は全国各地からDMA Tとか、ああいう救急隊が

来たんですけども、車中泊してたんですけどよね、市立病院の駐車場で。やっぱりいざというときに箱と防災の備蓄もないと、ちょうど日の出公園が防災の備蓄品の備蓄場所だったと思いますけども、こう出た以上は、備蓄品を移送することも考えるということも含めると、より総合体育館なのか防災体育館なのか分かりませんが、この辺でちょっともし考えをお聞かせいただきたいんですけど、お願いします。

○司会 それでは、ただいま浸水しないエリアに大きな建物があると防災のときによいのではないかと  
いうご質問かと思しますので、回答お願いいたします。

◎危機管理室長 危機管理室、前田でございます。今■■■■お話しのとおり、今回の想定で非常に私ども  
もつらいのは、北海道の冬場の避難というものがやっぱり懸念されるところでして、そこも大きな  
課題としていろいろ検討しなければならないというふうに思っております。

苫小牧市においては、これまでの避難の際の避難者の人数、直下型の地震によって1万人が避難  
するという想定してたんです。ところが、今回の津波の想定によって、先月ですけれども、北  
海道から避難者幾らになるかという、6万2,000人なんです、5倍以上なんです。そうすると、  
今■■■■お話しになったとおり、じゃあ、その方々をどこに収容すればいいのかということで、こ  
れ場合によっては、苫小牧だけでは対応できない問題というところもありますが、でも、少なく  
とも最大限いろいろな、これから津波避難ビルもいろいろと選定しようと思っておりますし、そ  
の先の避難所というところですね、生活する空間についても、できるだけ多くつくっていかね  
ばならないなというふうに考えております。そこについては、今この段階でどこにどうとい  
うことは、お話はまだできません、これから検討するお話になりますけども、そこはやはり浸水し  
ない区域にできるだけ多くの方々が避難できる、いつときでも長期でも避難できる場所、そう  
いうものも、やはり検討していかねばならないというふうに思っておりますので、先ほどのプレ  
ゼンの中でもお話しさしあげたとおり、このことについては中長期の視点でしっかりと取り組ん  
でいきたいというふうに思っておりますので、今のご指摘も踏まえて、少しでも多くの方が収容  
できるような避難体制をつくっていきたいというふうに考えております。以上です。

◎市長 一応、そういうことも想定しながら、総合体育館を移設する場合に、仮にそういった災害のと  
きに避難施設として使う場合、あるいは市民の皆さんの方が一のときの備蓄を蓄えておくところ  
に仮になった場合に、何かしらの補助制度というのがあって、それはこれからの話なんです、  
そういうことも視野に入れながら、財源として活用しながら、万が一のときに総合体育館、広い  
スペースがありますので、それは検討の中に入ってます、まだ、決定してるわけではありません  
が、多分そういう方向で考えるのではないかとというふうに思います。

○司会 それでは、どうぞ、今マイクお持ちいたします。

◆市民 度々すみません。津波ハザードマップ13ということで、今見ます。これ見ますと、上に逃げ  
てくのが、セブンイレブンで止まっていますよね。ところが、普通、そこから見えるのは工業高  
校なんです。数年前に地震あったときに、工業高校まで逃げた人が工業高校は開いてなかった  
ということがありました。

それから、もう一つ、その数年前、そのハザードマップで緑ヶ丘展望台、これは避難経路に入っていないんですけども、市民がかなりここへ逃げてきたんです。ここで車がかなり多かったんです。大体、下から見たら、緑ヶ丘展望台、高いというふうになると思いますんで、その辺についてはどう考えてるんでしょうか。

○司会 ただいまハザードマップについてのご質問いただきましたので、回答のほうお願いいたします。

◎危機管理室長 ハザードマップのお話が出ましたので、危機管理室、前田のほうからお答えをさせていただきます。今本日も配りをしておりますハザードマップなんですけども、先ほどのプレゼンの中でもお話しさしあげたとおり、これ、素案段階です。現在は、今地域のほうで説明会をした後に、いろんなご意見をいただきながら、今この修正作業をしております。

今セブンーイレブンまでというお話ありましたけども、一定の目安として線を入れておりますが、確かに目標地点としてはその上にある建物、工業高校までということが記されていたほうがいいのかなどというところもございまして、そういったいろんなご意見を今町内会の皆様方からいただいておりますので、そういったものを反映させていながら、今年度中の完成を目指していきたいというふうに考えております。

あと、展望台につきましても、実際、4年前の胆振東部地震の際にも、かなりの方がいらしたということも承知しておりますので、できましたら、私どもといたしましては、この工業高校を含めて、できれば建物の中に避難していただけるようなハザードマップを作っていきたいというふうに考えておりますけども、そこは地域の方のご意見なんかも聞きながら、1つのケースとして展望台を目指すということも入れるべきかどうか、その辺はまた少し検討させていただきながら、年度末の完成を目指していきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

◆市民 ちょっと関連していいですか。

○司会 はい、どうぞ。

◆市民 それで、工業高校は道立だから、小・中学校と管轄が違いますよね。それで、道と市とのそういう話合いというのはどうなっているんでしょうか。

○司会 お願いいたします。

◎危機管理室長 工業高校なんですけども、苫小牧市では避難所というものを市内の小・中・高、大学、48か所、指定はしてるんですが、小・中学校については、市の職員が何かあったときに開けられるように、実は鍵を持った職員がいるんです。これは、小・中学校についてはそういう仕組みなんですけども、道立の高校につきましても、ちょっとさすがに鍵を預かることができませんので、避難所には指定はしているんですが、そこは高校の方が来ていただいて開けるという仕組みになっております。

ただ、やはり津波の場合には、一刻を争う、猶予がない状況になりますので、その際にどのように開けることができるか、ここにつきましては、ちょっと今この段階ではっきりとした結論はまだないんですけども、その辺の対応策につきましても、一つの検討課題として、今後、道のほうとも協議をしていきたいというふうに考えております。以上です。

○司会 よろしいでしょうか。

◎市長 これちょっと余談なんですけど、11年前に、うちのすぐ裏の、うちの冷蔵庫みたくなってるセブンイレブンなんですけど、あのときに、車で緑ヶ丘公園に避難した人と支笏湖道路を避難した人がいたんです。それが全てではないんですが、このセブンイレブンで食料と飲物を買って避難するんです。見事に全部なくなったんです。それを見たときに、苫小牧、そんなに慣れてないまちなのに、みんながすごいなと、逆に僕は思いました。そういう知恵が瞬時のときに働いて、食料と水を買って避難した。真逆のことが、ちょうどあのときにNHKのヘリコプターが上から函館と苫小牧と釧路の港の様子を映して、津波が少し上がってきたときに、それを見に行った人が結構いたんです、車で。これは全く真逆で、これはもう絶対そこは避けなきゃいけない、まずは避難ということを徹底しなきゃいけないんであって、車に関してこういう真逆のことに感じた11年前でした。本当に見事に全部なくなりました。以上です。

○司会 それでは、ほかにどなたかいらっしゃいますでしょうか。まだお時間ございますが、ほかにご意見、ご質問等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ご質問、ご意見ないようですので、意見交換を終了させていただきます。最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たり、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 それでは、第1回目のまちかどミーティングということで、いろいろご意見等いただきまして、ありがとうございました。こうしたペースで、今年16地区、まずは基本的なことを一人でも多くの市民の皆さんに、特に町内会の役員の皆さんには知っておいていただきたいことをお伝えしたいなというふうに思っていますので、ぜひ今年も取組について、ご理解をいただきたいと思えます。最後になりますが、感染状況がまだ収まる気配がございません。しかし、ほとんどが軽症で、市立病院の感染症病棟の病床使用率もまだ余裕があるところがございますけれども、油断はできないわけですが、もう少し、これ、学校が始まりますので、学校が始まった後、今でも未就学児あるいは小学生の感染者が多くて、家庭内感染で家族に感染するケースも、苫小牧、見受けられますので、もうしばらく感染状況を注視しながら、これ以上感染拡大、あるいは万が一の事態に陥らないように、しっかりと状況を日々注視していきたいというふうに思っています。

このまちかどミーティングも市のほうでつくった開催可否の判断基準というのがございまして、その基準に基づいて、もしかしたら、途中で中断ないし中止せざるを得ないような状況になるかもしれませんが、いつまでもそういうブレーキばかりかけてるわけにもいきませんので、もちろん、今日もマスクとか消毒とか、それぞれ感染防止策をやっていますけれども、何とか10月20日まで、16地区全てやっていきたいなというふうに考えておりますので、ご理解をいただきますように心からお願いを申し上げます、最後のご挨拶に代えさせていただきます。今日はありがとうございました。

○司会 以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。ご帰宅後には、手洗い、うがいを徹底していただきますようお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。